

名護市立真喜屋小学校。前年度よりR先生は6年生の担任の古堅卓先生の「学び合い」の授業経営に関心を示していた。初任者研修の課題研究も「学び」の授業について研究を進めていたとのことである。「学び」の言葉が学校現場や一般メディアも流行のように使われているが、言葉の定義や理念が様々で一様でない。「学びの共同体」で提唱する「共同」「協同」「対話」「学び合い」について、じっくり研究を進めてほしい。本日、私の「授業を拝見させてくれませんか？」の依頼に、不安ながらも「こんなもんですけどいいですか？」と教室を開いてくれた、敬意を表します。感謝です。

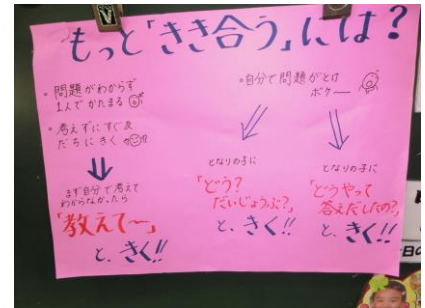
☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【教室経営】 学びの環境を整える



写真①

整然とした教室環境が「学び合い」を促進させ思考を深める。教室の掲示物とロッカーや棚の整理は教師として常に気にかけてほしい。教師として「私はこんな学級を創りたい」ビジョンを言葉や掲示物で子ども達に示すことは「子ども達の安心」にもつながる(写真①)。



私の教室なりの「学びの作法」の始まりである。教室で子ども達の実態に合わせて設定してほしい。さらに全教室で共通実践につなげるとなおい。

0:00 【 授業の始まり 】



チャイムの終了とほぼ同時に始まる。授業者の余計な言葉がなく静かである。さっさと前時の復習から入る。教師の余計な指示が全くない。教師が板書すると自然に子ども達の手が動く

0:30【既習学習の確認】 復習問題を提示

問1 4を10倍した数、10分の1にした数を求めよう。(復習)



写真②



写真③

いきなりの問題であったが子ども達は自然に学び合っていた。「訊き合う」にまだ不慣れであることを前提に、授業者はケアを心がけて子ども達の様子をかがう。写真②の男の子は授業者が意図的に周りの仲間につないだところ(写真③)である。

9:00 【本時の課題提示(共有問題)】(単位換算の引き算)

理乃先生のカバンの重さは3kgです。  
りほさんのランドセルの重さは2010gです。  
重さの違いは何kgですか。



写真④



写真⑤

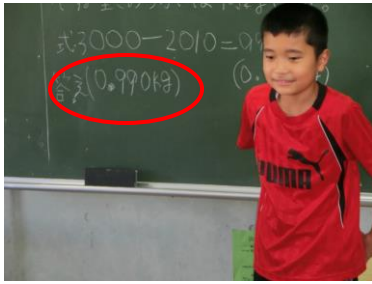


写真⑥

本時の共有課題がおろされた。黒板の課題文をノートに写し、各々解決に取りかかる。しばらくの間教室は集中の沈黙になる。

写真④、早めにやり終えた仲間が、つまずく仲間を気に掛ける仕草を見せる。やがて手が差しのべられる写真⑤。ほとんどのグループで何の違和感もなく互いに支え合っている。どちらかという「教えている側」に必死さを感じた。「教えられている側」も卑屈にならず素直に聞き入れてはいる。▲さて、「学び合い」と「教え合い」の違いは何だろう?「分かっているから教えてあげる。」行為と「訊かれたので寄り添って一緒に考えてあげる。」行為の違い、特に子ども達のメンタルな立ち位置を考えたい。「教える側」と「教えられる側」の壁はぜひ払拭したい。

20:00 【最初の問題を皆で共有する】



たどたどしい言葉で僕の考えを伝える。不慣れな子ども達が僕の言葉で「ぼくの考え方」を仲間に伝える。0.990 k gの0は仲間の声で訂正された。子どもによっては前に出るだけでも緊張する子もいます。僕の「たどたどしさ」を認めてあげてください。  
▲発表者の視線がかなり教師に向けられ、仲間から視線がそれることがありました。授業者のポジショニングを気にかけてみましょう。



【教師が気にかける。ケアを要する仲間達】



向かいの男の子は、女の子のプリントをかなり気にしているが、自分から「訊く」の依存ができない。途中で授業者はプリントの向きをかえケアに入り二人を「つなごう」とするが難しい。「分からないことは訊く」「聴き合う」・「訊かれたら一緒に考えてあげる」・「寄り添う」学びの作法として、ぜひ自然に依存ができるようにしていきたい。焦らずゆっくり教師が気にかけていれば必ずできるようになります。信じましょう。

25:00 ジャンプ課題



プリントでジャンプ課題がおろされた。まずは自力で取り組む、しばしテキストとの対話で教室は沈黙する。難しい問題に「学び」は加速する。

【共有のスペースを創る】



プリントが配布されてから、中央に寄せ合い互いに確認する。グループの中央スペースの有効活用である。(空間をデザインする)  
▲机の高さもそろえたい。

▲後ろの席の3名グループである。一見ただけでは確かに「学び合い」に見えるが。実は男の子からの依存がなく、女の子たちが気にかけてあげているのである。「待ってさえいれば何とかなる。」そんな気分がうかがえた。



32:00

身を乗り出して仲間に説明する。このグループの4人の関係がとってもいい。素晴らしい。ぜひほめて模倣させてほしい。できれば「分からない側」からの「訊く」で始まるとなおいい。



【2枚の写真】 何の目的で集まる？  
「分からない」ことを「分かる」ようになりたい学校はそもそも「分からない」ことを「学ぶ」子ども達のための学舎である。分かりきっていることを話すと主張の仕方や声の大きい子が取り立てられ「分からない」ことを学びに来た目的の子が忘れられてしまう。さて2枚の写真、解答を確認に来た仲間達である。「これでいい？」仲間に確認することによってのこの子達の心に起こるのは何でしょう。「これでいいんだ！」…目的は「安心」である。



R先生ありがとうございました。素晴らしい授業でした。DVDを見返しても子ども達の心温まる風景がたくさんあって心とみます。「学び合う」授業に挑戦して、初めての授業の公開で大変な勇気と不安、覚悟の決断があったのではないのでしょうか。ほんとに敬意を表し感謝します。真喜屋小の先生方とゆっくり授業の研究を進めていってください。同僚と「不安」や「疑念」を共有することは教師の「学び」になります。

「学びの共同体」って何。どんな理念なの。なぜ「コ」の字なの。なぜ小グループなの。なぜ「教える」ではいけないの。なぜ「訊く・聴く」が大切にされるの。「子ども達が学び合っている」風景のイメージって。言葉の解釈や理念について職員全体で共有できるといいですね、ぜひ「ゆい」の『跡』で確認していただければと思います。まずは「…『学び』って何？」 すぐきな授業ありがとうございました。

国頭学びの会ゆい